



# 種まき隊 いざ出陣!

喜多方で いわきで 福島県内全域で

全国の里親さんの希望の種が、いよいよ福島の地で芽を出します。

ひまわりを復興のシンボルとすることを目指す「福島ひまわり里親プロジェクト」も二年目を迎えました。

昨年、里親の皆様から贈って頂いたひまわりの種は、今年の夏には県内各地の九千カ所以上で植えられ、希望の花となつて咲き誇る予定です。

福島県喜多方市では、福島県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部熱塩支部、日中支部の皆様が中心となつて「希望のひまわり大作戦 in 喜多方」がスタート。町中でひまわりが育てられています。

喜多方の玄関口、JR喜多方駅でも駅構内にたくさんひまわりが植えられます。駅への寄贈は同青年部の仲介で実現し、五月十日に種の贈呈式が行われました。贈呈式では、半田真仁代表が、里親さんから送られてきたひまわりの種10kgを蕪木勇雄駅長、青年部の安田実副部長、松沢京太専務理事、岡村三夫熱塩小学校長、安田茂熱塩温泉旅館協同組合理事長へお渡ししました。

「皆さんに喜んでもらえるように、精一杯植えさせていただきます。ぜひ、喜多方に来て下さい」と蕪木駅長。駅長は贈呈式の後、「全国の皆さんが福島を思つて育ててくれた種を植えて、ひまわりを咲かせます」と、駅を利用する高校生や会社員の方々、一人ひとりに資料を手渡ししながら、福島ひまわり里親プロジェクトのことを話してくれました。

(2ページへ続く)

福島ひまわり里親プロジェクト事務局 (NPO法人 チームふくしま、福島市)

電話 024-529-5153

HP: <http://www.sunflower-fukushima.com/>

里親申込み 応援メッセージ お問い合わせ



芽を出す  
希望の種

# 種まき隊 いざ出陣! 喜多方で いわきで 福島県内全域で



この夏はひまわりでいっぱいにする計画の喜多方駅。地元のお客さんにプロジェクトについて説明する黒木駅長(左)



復興列車が走る湯野上温泉。鈴木会長が会津鉄道佐藤様へ種を寄贈

利用者の皆さんは、ひまわりが咲くホーム内の線路脇を見ながら、夏が待ち遠しくなった様子でした。

JR喜多方駅で咲くひまわりは、喜多方市立熱塩小学校の皆さんが種まきと苗植えを行ってくださいます。五月二十九日には、熱塩小五、六年生の皆さんが、校庭でひまわりの種まきを行いました。「きれいなひまわりが咲いてほしい」「ひまわりでみんなを元気にしたい」。小学生の皆さんが心を込めて植えた種が苗まで育つと、喜多方駅へと植え替えが行われる予定です。七月三日、喜多方の皆さんの手で、駅構内に夏の太陽に負けないほど元気なひまわりが植えられました。

喜多方ではさらに、旧熱塩駅である日中線記念館の敷地内や、熱塩温泉の各旅館さんなどでも、ひまわりが植えられる予定になっています。七月下旬から八月にかけて希望のひまわりが花開き、皆さんを歓迎します。

このほか、県内各地で、様々なイベントが予定されています。猪苗代町にあるリステルパーク内の猪苗代ハーブ園では、里親さんのひまわりで作った「ひまわり迷路」が登場する予定です。寄贈した100kgの種は、すでに発芽し、七月下旬のオープンに向けて順調に育っています。「笑顔が咲くように」と思いを込めて育てられたひまわりが、磐梯山をバック

に金色のひまわり迷路となりま

す。福島民報社のスマイルプロジェクトも順調です。「福島県内に花を咲かせ県民を勇気づけよう」と、同社が企画したもので、昨年は巨大なひまわりアートが出現し、多くの人を笑顔にしました。

今年には河北新報社のスマイルみやぎ、若手日報社のスマイルいわてと合同で、「スマイルとうほくプロジェクト」となり、六月十六日に須賀川、六月三十日に郡山布引高原に里親さんのひまわりが植えられました。

種のバック詰めなどをお手伝いいただいている、知的作業所の和(なごみ)のある二本松市。ここで

も安達ヶ原ふるさと村の広大な敷地や、岳温泉の風情ある街並みにひまわりが咲き誇る予定です。安達太良の「本当の空」に映えるひまわりをお楽しみいただける予定です。

安達ヶ原ふるさと村や、伊達市のつきだて花工房では、お客様の安全のため、除染作業が行われていました。それまで大切に育てながら、お客様の身を一番と考え、伐採した木々や植物も少なくありません。里親さんのひまわりは、少し寂しくなりましたが、景観を明るく彩る役目も果たします。

忘れてはならないのが、福島県内各地の温泉です。福島県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部の各支部皆さんの協力で、温泉地でもひまわりが咲くことになりました。

南会津の湯野上温泉では、観光協会の協力で、地域全体での取り組みが行われています。会津鉄道の車窓から見えるように、線路沿いにひまわりを植えるほか、全国の里親さんのメッセージを展示する復興列車も飯坂電車に続いて決定しており、湯野上温泉を盛り上げます。

そのほか、地域の幼稚園、小学校でも予定しています。福島市の土湯温泉でも、ひまわり迷路を企画。多くのボランティア

アの方々の手で30kgもの種が植えられました。今後、収穫祭も予定しており、ひまわりで温泉街を盛り上げようという意気込みが感じられます。

各団体さんから、里親さんへ沢山の感謝のメッセージも届いています。

「希望のたね ありがとう。元気なひまわり咲かせます」。

こちらは、ふくしま土壤クラブからのメッセージです。ふくしま土壤クラブは、ふくしまの果物を安心して食べることが出来るように、自分たちが出来ることから始めようと組織された団体です。福島に来ていただいた方に楽しんでもらうため、道路沿いにひまわりを植えていきます。

「伊達の農業がまたできると信じています。ありがとう。」伊達の農家、佐藤さんから里親さんへ希望のメッセージです。佐藤さんは、福島でIMO JAPANという焼き芋屋さんを経営しています。農地再生のため、果樹園に植えていただく予定になっています。

このように里親さんの希望のひまわりは、福島県内各地の団体、学校、施設などを中心に、様々な方々に広がっています。そしてこの夏、県内中が金色のひまわりでいっぱいになり、復興のシンボルとして多くの人々の希望の花となることでしょう。

# 球児が賭けた “夢舞台”に咲いた大輪



球児の夢舞台上に咲いたひまわり

震災から四カ月後の昨年七月。福島から遠く離れた鳥根県の松江商業高校野球部の皆さんが福島ひまわり里親プロジェクトに参加してくれました。

あります。それは甲子園出場です。ですが、もしも甲子園に出場できなくても、ひまわりの夢はかなえたいと思います。

バックネット裏のひまわりはその思いに込めるように大会前には無事、芽を出しました。

きっかけとなったのは福島ひまわり里親プロジェクト代表の半田真仁が講演のため、鳥根県に伺ったことです。講演会后、野球部の水津則義監督が駆け寄って「これ、こうおっしゃいました。」

「福島のために頑張ってひまわりを育てます。野球も精一杯頑張って甲子園出場を決め、福島県代表の選手にひまわりの種を届けること。この二点を目標とします。」

監督の思いは選手にも伝わり、県大会まで残り十日という大切な時期にも関わらず、練習時間の合間に種をまいてくれました。

「自分たちがやるべきことをやっ一つずつ勝利し、それと同時にひまわりを咲かせ、種を届けて復興の役に立てればと思います」と主将。

福島の復興への想いを込めユニフォーム姿の球児たちの手でバックネット裏にひまわりが植えられました。

後日、水津監督から電話があり「さ。」「確実にお約束できないことが

そして迎えた甲子園予選。それは復興への願いを込めた夏の大会になりました。松江商業高校は順調に勝ち進みましたが、準決勝でこの年の優勝校・開成高校に惜しくも破れ、結果は三位。甲子園出場は果たせませんでした。

甲子園で福島代表に種を渡すという目標こそありませんでしたが、福島の復興を思い、ひたむきにプレーした球児の姿は、福島の被災者の方々に勇気を与えてくれました。

福島のことを思いながら、甲子園出場を賭けた大きな夢舞台上に咲いた球児たちの願い。試合には敗れても、彼らの願いは、ひまわりの種と共に、絆の物語として全国に広がっていきます。そして今年も、来年も球児たちの情熱の弾ける夏に、再び大輪の花となつて、多くの被災者の方々の心の支えとなつていくことでしよう。

## 「いのちの短歌」が咲かせた福島の希望

渋谷さんは、この男性とのご縁の中で「離れているからこそできることがある」。そして、「人は最期までだれかを輝かせることができることを学んだ」と話してくださいました。

現在三首の短歌は、県内各地で開催されるメッセージ展でも展示され、男性の温かな想いに福島の人々が勇気もらっています。

2011年9月15日、広島県の緩和ケア病棟に入院されていた男性が、福島への想いを三首の短歌に託し、永遠の旅に向かわれました。この短歌には、その方が病室で見守っていただいたひまわり里親プロジェクトのひまわりが詠まれています。

けてこられたご自身のブログに三首の短歌を詠まれました。

「向日葵の 残り少なき日を告げて  
ホスピスの庭に降り続く雨」

「福島の 向日葵の種育てつつ  
彼の地の子らの明日を憂う」

「丹精を込めて 育てし向日葵に  
子らの明日に幸あれと託す」

男性が体調の異変に気づいたのは2011年の5月ごろ。病院に行くと、「すい臓がん」と診断され、すでに末期状態、余命3ヶ月と宣告されました。男性は抗がん剤などの治療を望まず、限りある日々を静かに過ごしたいと、緩和ケア病棟があるM病院を選ばれました。

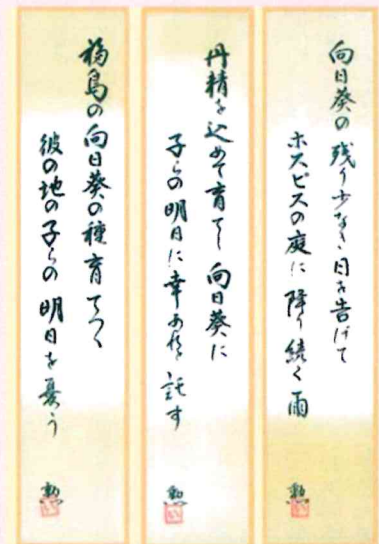
咲き誇るひまわりに、復興を目指す福島と子どもたちの力強い未来を重ね、大きなエールを送りつつ、2011年9月に永眠されました。これが、ブログの最期の更新となりました。

その病院では作業療法士の方がひまわり里親プロジェクトに賛同してくださり、病院全体で活動に取り組んでいました。緩和ケア病棟やテラスなどにたくさんのひまわりが植えられていました。

ご自身の身は病いに侵されながらも、最期まで福島の、日本の将来を作る子供達の幸福を願っておられました。

男性は病院スタッフよりひまわり里親プロジェクトのことを聞き応援。長年続

三首の短歌は短冊に記され、プロジェクトを進めて下さった渋谷さんによって、その後福島に届けられました。



プロジェクト事務局に届けられた男性からの俳句

# “ひまわりの里”大越町

おこなえまち

福島県田村市大越町で、全千五百世帯でひまわりの花を咲かせようという、“ひまわりの里”を目指す取り組みが進められています。全世帯で植えるのは全て里親さんから頂いた種。五月二日に寄贈式が行われ、半田代表が大越まちづくり協議会の松本昌行会長と同地区の牧野ひまわり会の佐久間辰一会長に手渡しました。



東京の清輔さんらも参加して開かれた種まき＝大越町



多くの住民が参加した種まき。大越の元気なひまわりガールたち

この種の寄贈は、当プロジェクトと牧野ひまわり会との交流の中で実現しました。牧野ひまわり会は、地域の絆を取り戻すために、一九九六(平成八)年からひまわりを育て始め、今年で十六年目を迎える歴史あるひまわり団体です。ひまわりの茎を利用した杖やひまわりの染物、ひまわり油なども生産しており、当プロジェクトに様々なアドバイスをくださいました。さらに今回、里親さんのひまわりも植えていただけることとなりました。

大越町のみなさんに寄贈した種は全部で500kg。全千五百世帯だけでなく、十二の行政区でもひまわりの種を配布。町内だけでなく、二ヶ所以上はひまわりが咲き誇る予定です。

寄贈式には町民の皆様三十名以上が参加。福島ひまわり里親プロジェクトに興味を持ち、この日見学に来ていた清輔夏輝さんから東京都の若者達も参加。半田代表とともに種の寄贈を行いました。松本

会長は、寄贈式のなかで「美しいひまわりの町を作れるよう頑張ります」と決意を述べました。式の後、ポットへの種まきも行われました。清輔さんらは種まきにも参加。町民の方々とお話しをしながら一粒ずつ大切に植えていきます。「ひまわりの花が嫌いな人はいない。この花を見て、みんなが笑顔になるといいね」。若者たちは、町民の方々の温かい声に真摯に耳を傾けていました。

「それぞれの思いが詰まった特別な種。未来の希望のように花が咲き誇ってほしい。ひまわりが町一面に咲く頃にぜひまた見たい」と清輔さん。ひまわりによって福島と県外の方との交流がまた一つ、生まれましました。

大越町では八月十五日に毎年恒例となったひまわりフェスティバルも企画されています。「ひまわりの里」大越町。八月には町中で見頃を迎え、訪れる人々の笑顔も満開になるといいます。

## “福島を忘れない”風化対策



プロジェクトの展開について様々な意見がとびだした理事会

## “福島を忘れない”風化対策

# 理事会で意見交換

福島ひまわり里親プロジェクトは昨年三月、観光、里親さんとの絆、雇用(障がい者雇用含む)、「福島を忘れない」風化対策、除染効果を狙って活動を開始しました。しかしその後、「ひまわりは除染にほとんど効果が無い」などとする国の研究結果が出され、本プロジェクトの理事の間でも議論がありました。六月に、福島市内で開かれた理事会では、参加した理事で意見交換をしました。

「これまでのひまわりの除染に関する経緯をざっと説明してください。」

A「原発事故で放射性物質が福島県内に飛散したことから、『ひまわりで除染し、しかも里親さんと一緒に福島が復興できる』ということで、福島ひまわり里親プロジェクトがスタート。私自身もかなりのめり込んでやってきました。ところが、国は除染に関して『効果が無い』と発表しました。」

B「土の下に放射性物質が沈んだチェルノブイリの原発事故汚染地域では、菜の花とひまわりで除染を行なっています。ひまわりには復興のイメージもあります。もう一度農業が続けられればという農家さんの思いもあります。除染も大切だと思います。あきらめずに地道に取り組みべきではないでしょうか。」

C「プロジェクトの理事の間では、『里親さんに対して責任を果たすためにも、私たちの迷いや、議論のプロセスを全部ホームページで発表したらいいのではないか』という意見が出ました。一方で、『迷っていることを出す必要もないのでは』と言う意見もありました。ただ、除染効果のある、なしに関わらず、ひまわりで福島を復興させたいという目的はどういうプロセスで、本プロジェクトに反映させていくかだと思います。」

「県外の里親さんの声はどう

ですか。」

D「私は全国で講演をしていますが、応援してくれる声を直接感じる事ができます。地域によっても関心が少し違って、例えば東京の方々は、『福島は近い』と感じてくれて、『身近な住民の支援をしたい』と言う意識が高い。除染や観光、復興、風化対策への意識がありますね。一方で、西日本の方々は『私にできることは何かないか』という意識、震災後の企業がどうなったか知りたいという意識があります。こうした応援の声に応えるためにも、このプロジェクトでは観光や雇用、絆や『福島を忘れない』被災地と支援してくる方々をつないでいく、といった部分に重心を置いて、活動すべきだと思います。」

「助かる人がいるなら助けたいというのは、私たち共通の思いですよ。農地も観光地も、いま働いている人がいる。その方々に希望を持ってもらいたい、先祖からの土地で農業をして、美味しく食べてほしい。除染、観光、いずれにしてもプロジェクトの目的は一緒だと思います。では、どうしたいでしょうか。」

B「除染に関する考え方は人それぞれ。一つの方法に固執しない方がいいし、方法にこだわらずに、夢がある方法で除染すると言うのも大切です。」

「小さいお子さんを持つお母さんは特に、放射能に関して敏感になっています。それでもそ

の話を近所でできないという悩みがあります。ぜひ、除染の効果に関しては引き続き研究をしていくべきだと思います。」

「では具体的に、これからどのような取り組みが必要でしょうか。」

E「里親さんの応援の様子や福島との交流など、歴史に残ったり、子どもたちが誇りに思うような活動が大切だと思います。そのためには、大人の動きを記録していくことではないでしょうか。私は各地で講演を頼まれますが、活動内容をハッピーニュースとして伝えていきたいです。もちろん、福島が元に戻るのが一番ですが」

A「書籍などにして残すという方法もありますよね。缶バッジやTシャツ、チヨロQなどのグッズを通じて、多くの人に知ってもらおう工夫も必要だと思います。」

「私たちのプロジェクトは何のためにやっているのかを理解することが大事ですよ。」

B「大人も子どもも元気にしていきたいですね」

# 福島市長へ 希望の種贈呈

「花もみもある福島市」をキャッチフレーズに、自然と果物の里をPRする活動をしている福島市に、里親さんのひまわりがさらに彩りを加えることになりました。

ひまわり里親プロジェクトの事務局メンバーは五月十一日、福島市役所を訪れ、里親さんにいただいたひまわりの種を瀬戸孝則市長に贈呈しました。新聞社やTV局など報道機関も多く取材し、注目の高さが伺えました。

この日贈呈した種は計十萬粒。半田代表が「楽しみながら種を育てて下さ

式ではまず、プロジェクトの半田代表より、福島ひまわり里親プロジェクトの活動内容を説明。雇用促進や観光、風化対策などのプロジェクトの目的や、昨年の活動の説明をしました。さらに全国の里親さんから約5tもの種が戻ってきている現状、その種と一緒に福島へと約2万人分の応援メッセージが届いていることもお伝えしました。

「種を渡すと、瀬戸市長は、「温かい心をありがとう」と言います。里親さんの思いがこもった種を福島市民で育てていきます」と里親さんへの感謝を述べました。

瀬戸市長は当プロジェクトの資料に目を通し、特にエネルギー対策に注目。「絆作りももちろん大切だが、ひまわりの種がエネルギーになる点も興味深い。滋賀県で行われた菜の花プロジェクトのように、環境問題も含めて、ひまわりで福島市がきれいになればと期待します」と、今後の活動への期待を語りました。

この日贈呈した希望の種は、市内の各緑化団体に配られ、公園などに植えられるほか、六月二十四日に市中心部のまちなか広場にて行われた緑化フェスティバルで、来場者へ配られました。

花もみもある福島市に、里親さんのひまわりがさらに彩りを加えます。



種贈呈式で「里親さんの思いのこもった種を大切に育てます」と話す瀬戸福島市長(左)

今年、陸前高田市で花開いたひまわりは、人々を笑顔にする役目を終えると種となって、福島に戻ってきます。福島では二本松にある知的作業所の和(なごみ)さんに送られ、県内へと贈呈されます。

奇跡の一本松から、希望の二本松へ、笑顔がつながっていく。被災地同士の交流が、福島ひまわり里親プロジェクトをきっかけに実現することになりました。

## 「奇跡の一本松」から「希望の二本松」へ

東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。特に被害の大きかった海岸沿いの高田松原地区の景観を改善しようと、NPO「再生の宿ヤルキタウン」により、主要国道にひまわりを植えるプロジェクトが進められています。

「笑顔で復興を目指したい」。まだ瓦礫が山積みに残るなか、元気なNPOによりプロジェクトがスタートしました。

5月24日。あいにくの小雨にもかかわらず、50名以上の人々が集まり、ひまわりの種まきが行われました。場所は国道45号と、340号のあわせて5kmにもわたる沿道。福島ひまわり里親プロジェクトの種は、高田松原の70,000本の松のうち、唯一津波に流されなかった「奇跡の一本松」がよく見える国道45号沿いにまかれました。

この日は、陸前高田市の久保田崇

副市長も参加。「復興まで時間がかかるだろうが、陸前高田市の市民の皆さんにとって元気や希望を目に見える形で与えてくれる大変意義のある事業です」と激励しました。

さらに、福島ひまわり里親プロジェクトに対して「福島にひまわりの種をお返しできるのが我々にも喜びになります。被災地間の交流のきっかけとなれば」と久保田副市長。プロジェクトの半田代表も、「ひまわりが人的交流のきっかけとなれば」と期待を寄せました。



復興のシンボルとなっている「奇跡の一本松」



半田代表(右)と被災地間の交流について話す久保田崇陸前高田副市長

ひまわりとともに再出発

# プロジェクトでお馴染みの三人の子供たちの笑顔のイラストが看板になりました

原発事故の影響で立入禁止区域となった富岡町から避難し、いわき市に移った看板製作会社アドプロ芸社が製作しました。

「喜んでもらいたい」と、地域に根ざした活動をしていました。しかし、二〇一一年三月十一日の震災で生活は一変しました。

大和田さんは、社内で被災。震災のあった晩、大和田さんは家族と避難所で一夜を過ごしました。その時はただ「明日、家の片付けをしなければ」と思っていたそうです。しかし翌十二日、突然の避難命令が出て、大和田さんは大越町へ向かいました。「その時は言われ

るまま、逃げていました。今思えば、原発が原因と解りますが、その時は何が原因で逃げていいのかすら解っていませんでした」大越町の体育館で五日間ほど過ごす、親戚を頼って茨城県に向かいました。茨城に無事避難できたのはいいものの、仕事どころではありません。そもそも会社にも家にも入ることすら出来ない状況です。そして三月末、大和田さんの会社は社



看板を製作した大和田さん

「援縁感謝(えんえんかんしや)」。震災以降、アドプロ芸社はこの言葉を合言葉に活動しています。再出発を支えて下さった支援の「援」、そして、お仕事を頼

「援縁感謝(えんえんかんしや)」。震災以降、アドプロ芸社はこの言葉を合言葉に活動しています。再出発を支えて下さった支援の「援」、そして、お仕事を頼

「援縁感謝(えんえんかんしや)」。震災以降、アドプロ芸社はこの言葉を合言葉に活動しています。再出発を支えて下さった支援の「援」、そして、お仕事を頼

五月十五日、ひまわりプロジェクトの事務所、同社の大和田さんが完成した看板を届けに来てくれました。

大和田さんは、社内で被災。震災のあった晩、大和田さんは家族と避難所で一夜を過ごしました。その時はただ「明日、家の片付けをしなければ」と思っていたそうです。しかし翌十二日、突然の避難命令が出て、大和田さんは大越町へ向かいました。「その時は言われ

るまま、逃げていました。今思えば、原発が原因と解りますが、その時は何が原因で逃げていいのかすら解っていませんでした」大越町の体育館で五日間ほど過ごす、親戚を頼って茨城県に向かいました。茨城に無事避難できたのはいいものの、仕事どころではありません。そもそも会社にも家にも入ることすら出来ない状況です。そして三月末、大和田さんの会社は社

「援縁感謝(えんえんかんしや)」。震災以降、アドプロ芸社はこの言葉を合言葉に活動しています。再出発を支えて下さった支援の「援」、そして、お仕事を頼

んでくださった方との「縁」。双方への感謝をこれからも忘れないようにとの思いが込められた言葉です。

## 種まきシーズンはまだまだこれから!



ひまわりの種まき前線は、北海道から九州へと南下していきます。種まきの限界

お友達や家族と一緒に種をまき、絆が深まったというお話もたくさん事務局に届いています。里親プロジェクトをきっかけに皆さんと周りの人々との絆が深まることでしょう。

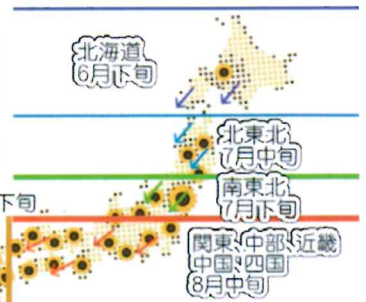
時期(種をまける時期)は地域によ

って異なり、北海道は6月下旬、東北地方は7月の中旬頃、関東から中国、四国地方までは8月中旬、九州地方までは8月下旬です。これは、ひまわりの種の採取までを考えた余裕のある限界時期です。

昨年、四国の愛媛では1月に咲いたという事例が事務局に報告されました。まだまだこれから種まきを行っても、きれいなひまわりが咲きますので安心して育てて下さい。何回かに分けて種まきをすれば、長い期間、ひまわりの花を楽しむことができます。

里親さん向けの種の販売は、地域の限界時期に合わせて締め切らせていただきます。北海道の皆さんは6月末で締め切りました。ご了承下さい。東北地方から九州地方の皆さんは、種まきの限界時期まで余裕がありますので、販売を続けていきます。

- <種まき限界時期>
- 北海道 : 6月下旬
- 東北北部 : 7月中旬
- 東北南部 : 7月下旬
- 関東、中部
- 近畿、中国 : 8月中旬
- 四国
- 九州、沖縄地方 : 8月下旬



ひまわり前線  
~種まきマップ~

イベント情報

▽開催中～7月11日  
**福島県立博物館 福島ひまわり里親プロジェクトメッセージ展**

会津若松市の福島県立博物館エントランスホールにて、全国から寄せられた福島への応援メッセージや写真を福島県の皆様へお届けする感動のメッセージ展が開催されます。入場料は無料です。

▽7月28日～29日  
**相馬野馬追**

国指定無形重要文化財の伝統的な祭。

太田地区では甲冑(かっちゅう)をまとった500騎もの騎馬武者が20ヘクターにもものぼるひまわりの中を、壮大に行軍します。

▽8月15日  
**大越町ひまわりフェスティバル**

田村市の大越町で、毎年恒例のひまわりフェスティバルが開催されます。

1500世帯の全てで里親さんのひまわりをはじめ、街中にひまわりが咲き誇る、フェスティバルです。

▽8月以降  
**会津鉄道ひまわり復興列車**

会津鉄道でもひまわり復興列車が運行します。

全国の里親さんから寄せられた感動のメッセージを展示させていただきます。

▽開催中  
**ひまわり復興ツアー**

昨年、ひまわりを育てていただいた里親さん向けに、福島県内の研修ツアーを行ないます。

講話や種まき、ボランティア活動など、会社での研修や、個人の旅行でご活用ください。

震災当時の話や現在の状況、県内施設のご案内等、ご要望を承ります。

福島県内ひまわり  
 開花予想情報

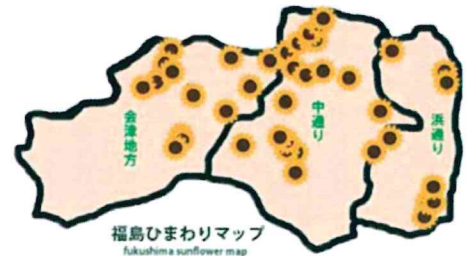
各地で次々に開花を迎えます

福島県内9,000ヶ所まで育てられている里親さんのひまわり。その中から、主要な場所の開花予想をお伝えします。

早いところでは7月下旬から花が咲き、訪れたみなさんに「笑顔の大輪」を見せてくれます。里親さん向けにはひまわり見学ツアーを開催。主なひまわり栽培場所はもちろん、ご希望に沿ってご案内など、対応させていただきます。里親さまに育てて頂いた種がどの団体様に寄贈されたかは、当ホームページのひまわりマップのページで確認できます。昨年育てた“ひまわりの子どもたち”をぜひご覧ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

福島県内でのひまわりの成長状況は、当プロジェクトのブログでお伝えいたします。なお、開花時期は天候の影響等で変わることがあります。ご了承ください。

(ブログ:<http://ameblo.jp/sunflower-fukushima/>)



主なひまわり栽培場所リスト

地域	団体名	開花予想	住所	見どころ
中通り	土湯温泉	7月下旬	福島市	ひまわり迷路
	福島土壤クラブ	7月下旬	福島市	果物を守るひまわり作戦
	安達が原ふるさと村	7月下旬	二本松市	鬼婆の里、ほんとうの空とひまわり
	つきだて花工房	8月上旬	伊達市	自然を体験できるひまわり畑
	牧野ひまわり会	8月中旬	田村市大越町	1500世帯全町民が参加
	おとぎの宿米屋(福島民報社)	8月中旬	須賀川市	スマイル型のひまわり栽培
	まるせい果樹園	8月下旬	福島市	カートに乗ってひまわり見学
	飯坂温泉観光協会	9月上旬	福島市	7,000世帯に種配布。ひまわり温泉
	布引高原(福島民報社)	9月上旬	郡山市	風車とひまわり。絶景スポット
	アグリプロダクションK	9月上旬	福島市	笑顔になれるひまわり畑
福島シード	9月上旬	須賀川市	全ての里親さんの種でハート型アート	
会津	猪苗代ハーブ園	7月下旬	耶麻郡北塩原村	ひまわり迷路
	あいづひまわりプロジェクト	8月上旬	河沼郡会津坂下町	笑顔の種まき、会津の元気を発信中
	湯野上温泉観光協会	8月上旬	南会津郡下郷町	復興列車とひまわり温泉街
	熱塩小学校(喜多方駅)	8月上旬	喜多方市	小学生が育てたひまわり駅
	柳津観光協会、温泉組合	8月上旬	河沼郡柳津町	赤ベコ発祥の地、ひまわり温泉
浜通り	裏磐梯観光協会、温泉組合	8月中旬	耶麻郡猪苗代町	100の宿泊施設でひまわり栽培
	ミツバチプロジェクト	7月下旬	いわき市	植田地区のひまわり栽培
	相馬野馬追いの里ひまわりプロジェクト	7月下旬	南相馬市	ひまわりの中を騎馬が行軍
	ハワイアンズ(福島民報社)	8月下旬	いわき市	観光スポットでもひまわり栽培

福島ひまわり里親プロジェクトのCDができました



福島への思いのこもった2曲入りのCD

「風吹く島」

- Restart～再出発～  
 森源太 作詞:喜多川泰 作曲:森源太
  - ひまわり  
 福井県鯖江市立立待小学校3年生  
 作詞:福井県鯖江市立立待小学校3年生 作曲:一途
- このCDに収録されている2曲は、どちらも県外の方が福島を思って作って下さったオリジナルソングです。復興を願う温かいメッセージが込められています。日々、福島の人々が勇気づけられています。ぜひ、お楽しみください。

ひまぼぼって、なあに?

キャラクター「ひまポポ」



ひまポポのfacebook  
 ページができました。

<http://www.facebook.co.jp/fhimapopo/>

それは、福島ひまわり里親プロジェクトのマスコット(編みぐるみ)です。そして希望のシンボルとして、福島にやってきました!髪(?)にはひまわりをつけ、胸にはたすきをかけて、いつもぽよぽよとみんなをほっこりさせてくれます。

